

区分・種別	県指定有形文化財（絵画）		
名 称	けんぼんちゃくしょくげつあんそうこうぞう 絹本著色月庵宗光像 1幅		
所 在 地	松山市上難波		
所 有 者	最明寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和40年4月2日		
解 説	<p>この画像は、月庵宗光の頂相^{ちんそう}で大きさが縦92cm、横38cm、絹本著色である。画家は不明だが、月庵の次のような賛があることから南北朝時代の作品と思われる。</p> <p>「意在言外 不許謾会 月落不離天 水流元在海 右法意大師写予真而求賛 一語以示之耳時永徳壬戌仲夏日 大明開山月庵宗光」（注 永徳壬戌年は1382年）</p> <p>月庵は京都大江氏の出身で、若くして臨済宗に入り、美濃の大円寺^{ほうおう}で峰翁和尚^{こせんいん}に学び、のち京都等持院の古先印^{むそうそせき}や夢窓疎石にも師事した。正平16（1361）年には松山市の大蟲^{だいちゅう}禅師の教えも受けた。但馬の大明寺を開いたのち、松山市上難波に最明寺を建てた。朝廷から大祖禅師の号を授けられ、元中6（1389）年に64歳で死亡した高僧である。</p>		

